

海外安全対策情報（2024年4月～6月：コロンビア）

1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）全般

2024年第二四半期の犯罪統計（速報値）によれば、殺人事件は前年同期比約2%減少する一方で、恐喝事件は前年同期比で約24%増加した。在留邦人の利用も予想されるボゴタ市内北部のレストランやカフェには、機関銃などを携行した犯人による大規模な強盗事件も散発している。さらに、SNSを通じて知り合いになり、飲食店や自宅等で飲食をする機会に乘じて、飲食物に睡眠薬を混入させて意識を失わせる睡眠薬強盗被害や、警察官に成りすまして職務質問を装い金品をだまし取るような手口の犯罪も引き続き発生している。

さらにメデジン市では、前述のとおりSNSや出会い系アプリを通じて知り合った異性から、気づかないうちに睡眠薬で眠らされ金品を盗まれる外国人や、違法薬物を過剰摂取して死亡する外国人が増加しているため、行動に十分に注意する必要がある。

このような被害に遭わないために、人気のない道路は日中でも避ける、身の回りの物から目を離さない、怪しい人物に狙われていないか注意する、乗車中に信号等で一時停止した場合でも不審者が付近にいないか確認する、むやみに車の窓を開けない（物乞い等に施しを与える場合にも直接手渡さない）、飲食店で出会った人物やアプリで知り合った人物を安易に信用しない等、常に警戒を怠らない心構えが必要である。万が一、強盗やひったくりに遭った場合は、生命を第一に考え、絶対に抵抗せず、盗まれた物を取り返そうとしてはいけない。

2 テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

2024年第二四半期テロについては、前年同期比約21%増加している。

いくつかのゲリラ組織や武装犯罪組織が現政権との和平交渉に応じる一方で、EMC（中央参謀本部、FARCの分派）とは交渉が中止された。この影響により、特にカウカ県北部及バジェ・デル・カウカ県南部において、EMCによる警察署や軍の基地等、治安部隊に対する攻撃が頻発している。よってこれらの場所には不用意に近づかないことが大切である。

なお、近年の主なテロ・爆弾事件としては、ボゴタ市では2017年6月、ショッピングセンター「アンディーノ」においてフランス人女性を含む3名が死亡する無差別テロ事件が発生、2019年1月、市内の警察学校内で学生22名が死亡するELNによる自動車爆弾が発生しているほか、上述の2022年3月26日のボゴタ市南部のシウダー・ボリーバルの交番（CAI）の爆弾テロにおいて、付近にいた児童2名が死亡、勤務中の警察官1名を含む25名が負傷、交番付近の家屋等約50戸に物的被害が生じており、今後もテロへの警戒は必要である。

2024年

- ・ 5月12日 バジエ・デル・カウカ県ハムンディ市ポトレリト警察署に対し、バイクに乗車した2人組みが接近し、うち1名が同署に対し手りゅう弾を投げきし、付近の家屋に物的損害が発生。
- ・ 6月17日 カウカ県アルヘリア市の農村部で手りゅう弾を搭載したドローンによる攻撃により住民4名が負傷、付近の家屋に物的被害が発生。
- ・ 6月23日 バジエ・デル・カウカ県ハムンディ市の農村部で、手りゅう弾を搭載したドローンによる攻撃により付近にいた兵士2名が負傷。
- ・ 6月7日 カウカ県ポパヤン市の警察司令部に対して、手りゅう弾を搭載したドローンによる攻撃があり、警察官3名が負傷。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

前述のとおり、2024年第二四半期は、恐喝・脅迫事件が前年同期比約24%増加であり、誘拐前年同期と比べ横ばいであるが直近4年間では高水準を維持している。恐喝事件は身に覚えのない連絡先から脅しのメールやメッセージが届き金品を脅し取るケースが散見されることから、知らない者からのコンタクトには慎重に対応することや、安易に脅しに乗らず、必要に応じて警察や検察に相談することが必要である。

都市部では犯罪組織による偽装タクシーを使用した短時間誘拐の犯行もあることから、タクシーアプリや無線タクシーを利用し、流しのタクシーは利用しない等の注意が必要である。